

あした
選挙
行く？

第4号

令和5年執行の杉並区議会議員選挙の結果について

令和5年、区民の代表となる48名を選ぶ杉並区議会議員選挙が行われました。

69名が立候補した今回の選挙。新人や女性候補の躍進が目立つ結果となり、杉並区議会の構成は大きく変わりました。

もう一つ、この選挙は1票の大切さを改めて感じる結果となりました。

というのも、48番目の当選者は、49番目の候補者と8票で当落が入れ替わる僅差で決まったからです。

投票率が4年前より4ポイント以上上昇した今回の選挙。

では、若者の投票率はどれくらいだったのでしょうか？

18歳の投票率は杉並区全体の投票率（43.66%）を上回る46.45%でしたが、19歳になると31.65%となり、さらに20代になると25.99%へと投票率は急降下、実に4人に1人だけになってしまいます。

18歳の時には関心のあった選挙。どうして行かなくなるんだろう。

忙しくて投票に行く時間がないから？

候補者をどうやって選べばいいかわからないから？

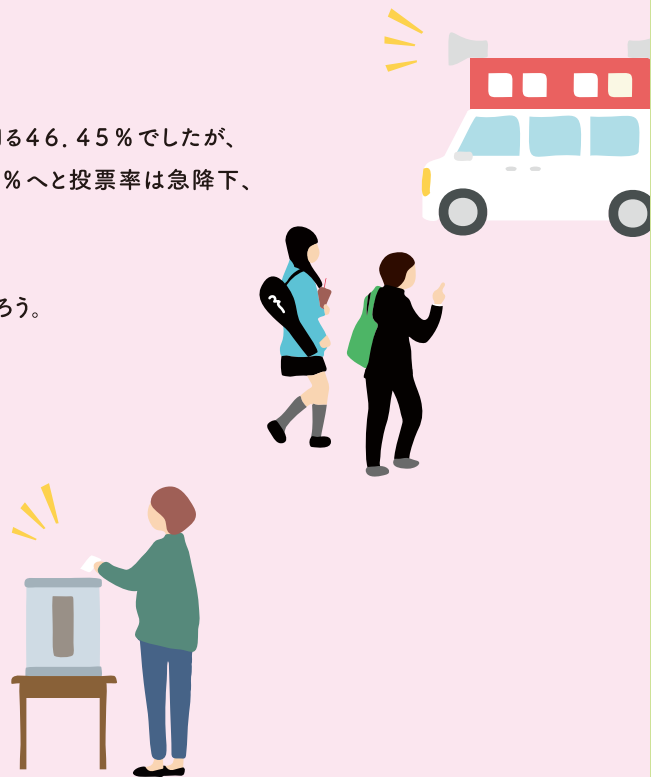
覚えていてほしいこと。

それは、選挙の結果であなたの社会は大きく変わります。

行ってみたら、その大切さに気付くかも。

その1票が未来をつくる。

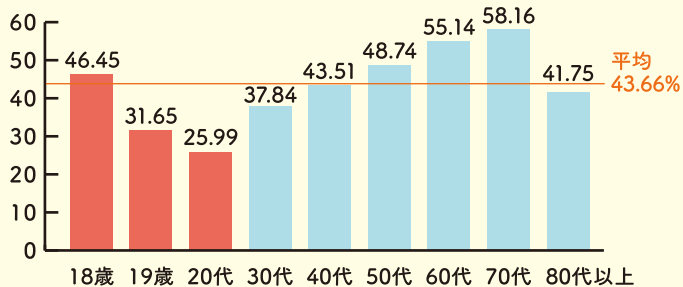
次の選挙で届けよう、若者の思い。



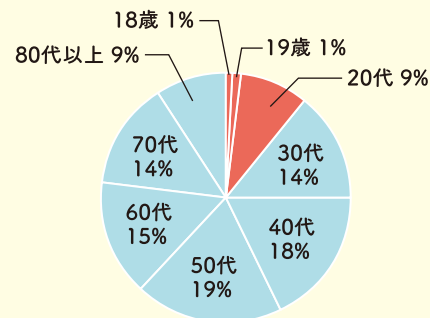
令和5年杉並区議会議員選挙のデータ

◆年代別投票率

※当日有権者数 471,473人
投票者数 205,827人



◆すべての投票者数に占める年代別投票者数の割合



SPECIAL INTERVIEW

ライター フリーランス



選挙の大切さ、面白さを様々な角度から伝えてくれるフリーランスライター・島山理仁さん。選挙の規模を問わず各地を飛び回り、立候補者全員に取材しない限り記事は書かないことをモットーに活動を続け、四半世紀がたつといいます。令和5年には主演を務めた(?)ドキュメンタリー映画『NO 選挙, NO LIFE』も公開され、広く注目を集めています。今回はそんな島山さんに登場を依頼、ライターとしての取材にまつわるあれこれ、そして選挙の楽しみ方などについて話を伺いました。島山さんにとって、そして私たちにとって選挙とは。選挙をめぐる深くユニークな言葉が、たっぷりと詰め込まれています。

選挙 情熱を注ぐ



Michiyoshi Hatakeyama

フリーランスライター
畠山 理仁さん

〆 立候補者の主張を
全て並べ、判断するのは有権者〆

〆 僕は有権者を
一方的に信頼している〆

— 選挙取材を始めたきっかけは？

大学生の時、東村山市長選挙に知り合いが出ることになり、アルバイトで街宣車の運転などをしました。それが選挙事務所に足を踏み入れた最初の一步です。いろんな世代の人が集まり、とても面白い場所だなと感じましたね。一方で、その頃は週刊誌の仕事もしていて、ニュースを扱うチームにいました。毎週月曜に会議があるので、テーマ探しのため朝から新聞をチェックするのですが、日曜の選挙結果がいつも記事になっていることに気づきました。そんな中、名前と年齢の他に「発明家」という一行程度の情報しかない方がいたので、「選挙に出る人が発明家ならば、なぜ選挙に勝つ発明をしてくれないのか？」とテーマを出したら大ウケしたんです。その後も毎週のように選挙を企画の一つに出し続けたのですが、週刊誌ですから、発行される頃にはすでに結果が出てしまう。つまり、そこではとても扱いにくいテーマだったわけです(笑)。

それでも、選挙の面白いネタを必ず会議

に持ってくる若者がいると、編集部には認識してもらっていません。平成10年にフリーとして独立した後は、一緒だった編集者から「大川興業の大川豊さんが出した政治の本の中で、君がテーマで出していたような独立系候補を取り上げていた。その内容が好評で、大川さんが政治の現場をルポする連載が決まった。だけど大川さんは芸人だから、週刊誌の連載にはサポートが必要。なので取材に同行してページを担当して欲しい」と声をかけてもらいました。そうして大川さんといろんな選挙の現場に行き、政治家にインタビューをする連載が始まります。それが選挙取材とその面白さに本格的にはまるきっかけになりました。

— 全員取材もその頃から？

読者の関心の中心は、主要政党の公認を得ている人などの選挙戦ですから、独立系候補者のことはほとんど載せられません。だけど、独立系候補者もきっと面白いはずと、大川さんとも

立候補者全員に会いに行っていました。独立系の方が熱いぞ、誰も応援してくれなくても選挙に出続けるエネルギーはすごいぞと思わされることが何度もありました。連載を続けるうち、主要候補者のことを書きつつ、「選挙戦でこんな好プレーがありました」みたいに独立系候補者も紹介する"型"ができてきた。連載は平成18年頃に終わりましたが、その後、僕が選挙をテーマにするときは「全員取材」を全面に出し、選挙期間中に全候補者の動向を報道するようになりました。だから、大川さんと出会ったことが一番大きいですね。

— 全員取材を敢行する中で大変だったことは？

令和4年7月に行われた参院選では、東京都選挙区の34人全員に会った後、大阪府選挙区の18人の立候補者に会いに行きました。順調に15人まで会えて、予定では7月4日に18人全員に会えたところで記事を書くつもりでした。しかし、その日に通信障害で電話が使えなくなり、候補者の人たちと連絡が取れなくなりました。なので仕方なく大阪から帰ってきて、「15人取材したけれど僕は書けません」と編集者に伝えて記事を見送りました。そうしたら、別の記者が全員取材じゃない方法で書いていました(笑)。

— 取材で気をつけていることは？

選挙中に対面でまとまった時間のインタビューをするのはすごく難しいんですよね。でも、選挙で大事なのは有権者とのコミュニケーションだと思っているので、演説の合間、街宣車から降りたタイミングなどに、一問一答できたらと思っています。気をつけているのは、簡潔に質問すること。その答え方が有権者の投票行動の判断基準になるよう、シンプル且つ本質をつくよう心がけています。例えば、「今回の選挙で何を一番伝えたいか」とよく聞きます。これは選挙公報などで候補者が提示するものと同じことも多いのですが、逆にそういう場面でふと聞かれた時に

どう反応するのを見るんです。無視する人、舌打ちをする人、足を止めて向き合ってくれる人、様々です。

— 取材を続けてきた原動力は？

いわゆる右の人からは極左と言われ、左の人からはなぜ右とあんなに仲が良いのかみたいなことを言われます。で、真ん中の人からはお前の意見はなんなんだ、と(笑)。どこに行ってもいろんな批判は受けるのですが、立候補者からどっちつかずな姿勢でいると指摘されることは逆に良い傾向で、自分の強みだと思っています。僕がやっているのは、右から左まで全部みなさんにお見せします、ということです。立候補者の主張を全て並べ、判断するのは有権者です、と。

僕は有権者を一方的に信頼しているんです。「こんな危険思想を持つてる人を紹介するのはけしからん」と言う人もいますが、有権者がちゃんとしていれば、危険だと思う人に「一票を入れない」というすごい力を持っている。全ての主張を比較検討できれば、間違った投票行動は起きないと思いながらやっています。

令和5年4月の杉並区議選の時も、「立候補者69人を全員取材します」と言ったら、ほぼ全ての方が「そんなことできるの？」と、面白がって協力してくれました。今までやってきた「一度は必ず全員に直接会いに行く」というスタンスを理解してもらえたからだと思います。特定の主義主張を持った上でやろうとすると、上手くいかない。どこかの団体と関係があると疑われたことはありましたが、全く独立していて、誰からもお金をもらわずに自分の持ち出しでやっていますと伝えると、みなさん協力してくれる。「こんなの儲からないでしょ」みたいに笑いながら。それが原動力の一つですね。



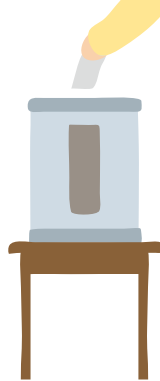


選挙の楽しみ方

島山流

選挙をどう見るか、何に例えるか。視点をちょっと変えてみるだけで選挙に対するイメージは変わるかもしれない——新しい一歩を踏み出すため、島山さんの言葉をヒントにしてみてください。

VOTE!



選挙とは「人間ドラマ」である

選挙に立候補する人は紛れもなくフィールドに立つスター選手で、そのスター選手を生で見るというのは最高にエキサイティング。例えばホームランを年間50本打つ人もいれば、生涯で1本しか打たないような人もいます。でも、たった1本のホームランが飛び出す現場に立ち会えるかもしれない。勝ち負けもあるが、その人の生きざまが出るのが選挙。たとえ勝ち目がないと言われても、自分がやりたいことを愚直に訴え続けている人を見ると、心が打たれる。勇気づけられる。みんな、人生をかけて立候補している。選挙は人間性をむき出しにする舞台装置です。だから、選挙期間中は毎日がドラマの連続なんですよ。そう思うと、直接見に行かないのはもったいないという気になるはず。



選挙は「スポーツ」で、安くない「買い物」でもある

僕は選挙のことをスポーツと呼んでいます。選挙「運動」なので、このスポーツの競技レベルを上げるには、競技人口を増やさなきゃいけない。買収は駄目とか、そういう基本ルールを徹底・共有することで参加者が増えると思う。投票に行かない人は、自分の考えと一致する人がいない、適当に選んで投票したらマズい、と真面目に考えてしまう。特に若者は「自分は政治に詳しくない」と思い込んでいるケースが多い。他方で、一年分の行政予算を有権者の数で割り、選挙の任期を掛けると、一回の一票でどれだけの額の行方を左右する意思表示になるかが算出できます。杉並区のような基礎自治体の場合だと、大体200万円ぐらい。その200万円の行方を決める選挙に、あなたは参加しないのですか。税金や社会保障費として所得を預け、いわば「入場料」を払っている中、数百万円の行方を左右する一票を捨てますかと聞くと、ちょっともったいないと思ってくれる。200万円の車を買う時、カタログだけ見て決めないはず。ドアの感じとか座り心地とか、直接確認するはず。同様に、選挙の時もいかなと思った候補者を直接見る。30秒でもいい。そしてできれば一声かけてみる。安くない買い物では当然の行為です。



島山流
こうすれば
若年層の投票率は
アップする!?

投票に行く一番のきっかけは身近な人が選挙に出ること。日本の今の制度だと立候補できるのは最速で25歳。18歳から見たら25歳は相当年配で、自分たちの代表とはちょっと思えない。となると、被選挙権年齢の引き下げも考えないといけない。あと、投票所を増やすことも必要。例えば大型ショッピングモールだと、若いカップルや家族連れも週末に買い物に来る。エレベーターホールに期日前投票所を設けておくと、ついでに投票できる。生活の動線の中に投票する場所を作ることが効果的だと思う。



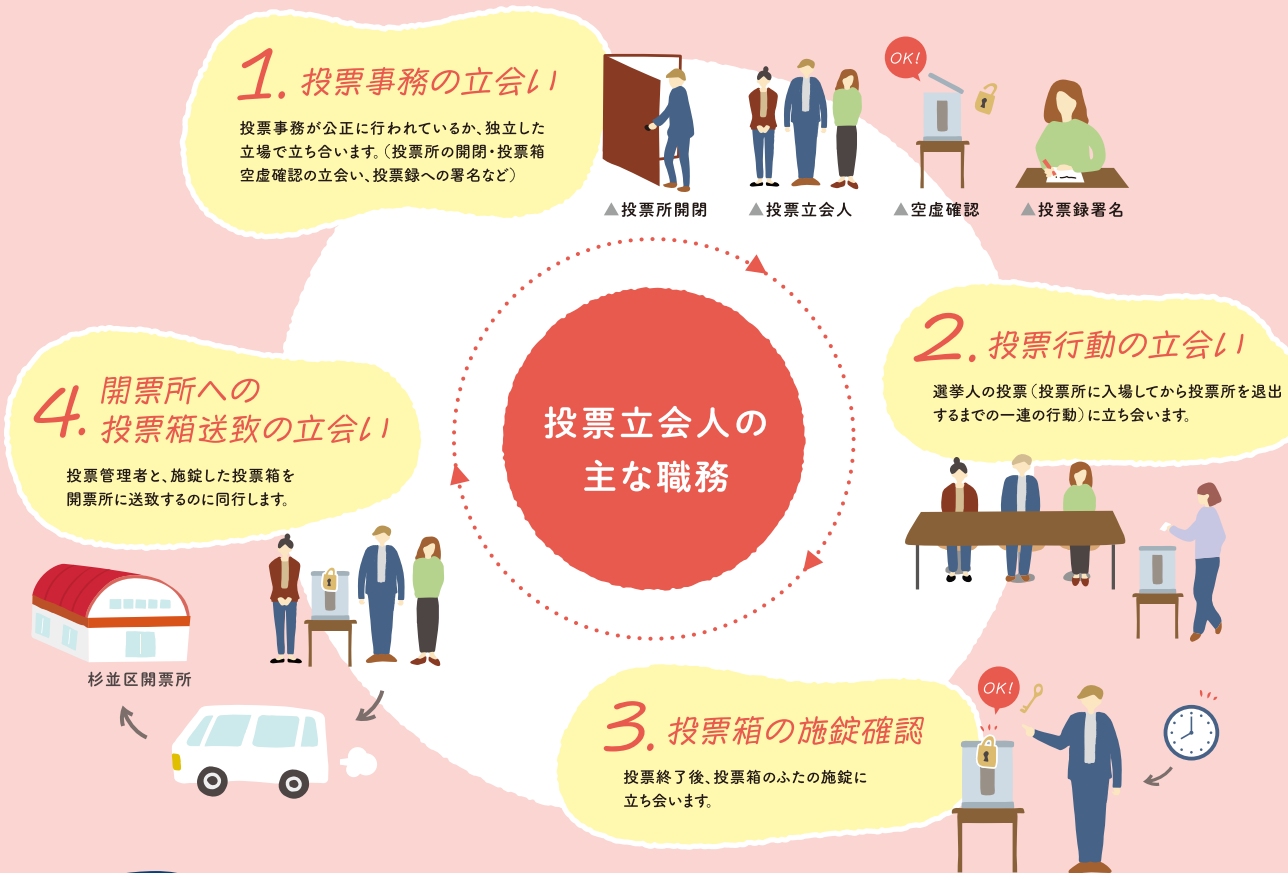
選挙のギモンにお答えします!

／ 選挙について、皆さんが疑問に思っていることにお答えします! \



～ 投票所にいる“立会人”って何をしているの? ～

「投票立会人」は、投票日や期日前投票期間に投票所で選挙に立ち会い、他人になりすまして投票しようとする人や特定の候補者への投票を呼びかける人がいないかに気を配り、投票が公正に行われていることを確認する役割を担っています。



若年投票立会人募集中!

杉並区選挙管理委員会では、若い世代の方にもっと選挙を身近に感じてもらうため、投票に立ち会っていただける方(若年投票立会人)を募集しています。興味のある方は、是非ご応募ください。

応募資格

- 選挙権があり投票日時点で18歳以上の方

報酬・立会い時間・その他

- 1日あたり報酬(令和6年3月現在)
投票日当日:14,000円 / 期日前投票:13,000円
※上記金額から、所得税法に基づく源泉徴収所得税を控除します。
- 立会い時間
投票日当日:午前7時から午後8時まで(集合:午前6時30分)
期日前投票:午前8時30分から午後8時まで(集合:午前8時15分)
- その他 昼食・夕食は各投票所で用意します。

応募方法

以下のアドレスにメールをお送りください。

senkan@city.suginami.lg.jp

- タイトル「若年立会人希望」
- メール本文に以下の内容をお書きください。
 - ・氏名(ふりがな)
 - ・生年月日
 - ・住所
 - ・連絡先
 - ・立会人を希望する理由



参加者募集中!

あなたも選挙サポーターに なってみませんか?



あなたの参加をお待ちしています。

杉並区選挙管理委員会では、若い世代の方に政治や選挙に対する関心を高めていただくとともに、もっと選挙を身近なものに感じてもらうため、選挙サポーターになっていただける方を募集しています。



詳しくはこちらから



あした選挙行く? 第4号

令和6年3月

企画・発行：杉並区選挙管理委員会

協力：杉並区明るい選挙推進協議会・杉並区明るい選挙推進委員・杉並区選挙サポーター

制作：NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

◎問合せ先

杉並区選挙管理委員会事務局

〒166-8570 東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号 TEL：03-3312-2111